

運用報告書（全体版）

日本金融ハイブリッド証券オープン （年1回決算型）

円ヘッジありコース/
円ヘッジなしコース

〈愛称〉ジェイブリッド年1

第4期（決算日 2020年6月15日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジありコース/円ヘッジなしコース」は、このたび第4期の決算を行いましたので、運用状況をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/海外/その他資産（ハイブリッド証券）	
信託期間	2016年6月30日から2021年6月11日まで	
運用方針	①日本の金融機関グループ（銀行本体、保険会社およびそれぞれの子会社、関連会社等を含みます。）が発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券（期限付劣後債、永久劣後債、優先出資証券等をいいます。）を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目指します。 ②「円ヘッジありコース」と「円ヘッジなしコース」があります。	
主要投資対象	日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジありコース 日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジなしコース	日本金融ハイブリッド証券マザーファンド受益証券
	日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券
主な組入制限	日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジありコース 日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジなしコース	株式への実質投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	



SOMPOアセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル



<https://www.sompo-am.co.jp/>

お問い合わせ先



クライアントサービス第二部 0120-69-5432
（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）

円ヘッジありコース

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 組 入 比	券 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 期 金 騰 落			
(設定日)	円			円		%	百万円
2016年6月30日	10,000			—		—	471
1期(2017年6月14日)	10,079			0		94.7	2,245
2期(2018年6月14日)	9,729			0		97.8	1,271
3期(2019年6月14日)	10,330			0		97.6	1,027
4期(2020年6月15日)	10,978			0		95.1	841

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1万口当たり（以下同じ）。

(注3) 債券組入比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注4) 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに合った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率
		騰 落	率		
(期 首)	円		%		%
2019年6月14日	10,330		—		97.6
6月末	10,462		1.3		96.8
7月末	10,461		1.3		97.9
8月末	10,696		3.5		95.1
9月末	10,642		3.0		98.2
10月末	10,708		3.7		98.9
11月末	10,767		4.2		98.4
12月末	10,734		3.9		94.4
2020年1月末	10,843		5.0		93.8
2月末	10,948		6.0		93.6
3月末	10,027		△2.9		94.1
4月末	10,680		3.4		93.8
5月末	10,926		5.8		94.4
(期 末)					
2020年6月15日	10,978		6.3		95.1

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注2) 債券組入比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注3) 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに合った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

円ヘッジなしコース

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 期 金 騰 落			
(設定日)	円			円	%	%	百万円
2016年6月30日	10,000			—	—	—	73
1期(2017年6月14日)	10,970			0	9.7	96.7	222
2期(2018年6月14日)	10,844			0	△1.1	97.0	133
3期(2019年6月14日)	11,636			0	7.3	97.0	279
4期(2020年6月15日)	12,544			0	7.8	96.7	330

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1万口当たり（以下同じ）。

(注3) 債券組入比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注4) 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに合った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率
		騰 落	率		
(期 首)	円		%		%
2019年6月14日	11,636		—		97.0
6月末	11,720		0.7		96.7
7月末	11,838		1.7		97.7
8月末	11,905		2.3		96.4
9月末	12,024		3.3		97.2
10月末	12,230		5.1		98.1
11月末	12,389		6.5		97.5
12月末	12,387		6.5		95.8
2020年1月末	12,491		7.3		96.5
2月末	12,678		9.0		96.5
3月末	11,575		△0.5		95.4
4月末	12,163		4.5		94.5
5月末	12,523		7.6		96.0
(期 末)					
2020年6月15日	12,544		7.8		96.7

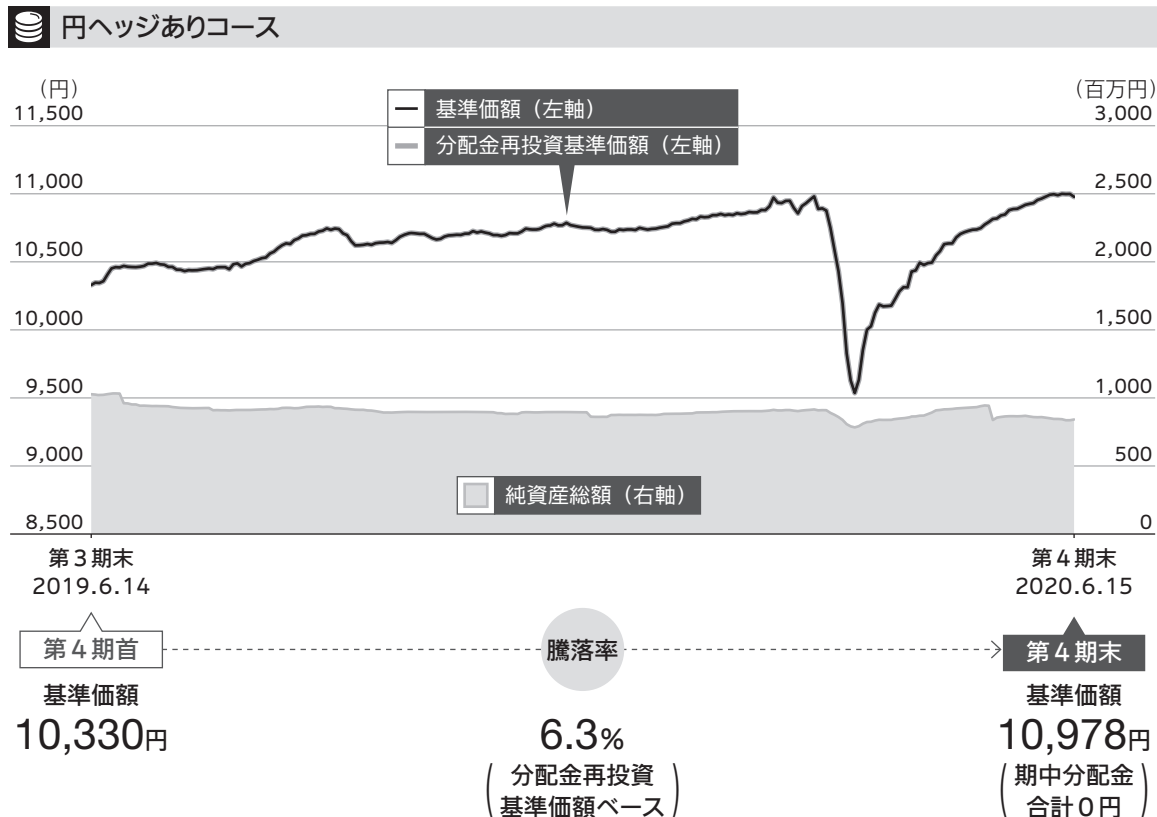
(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注2) 債券組入比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注3) 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに合った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

運用経過

● 基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額の推移は、2019年6月14日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 基準価額の主な変動要因

円ヘッジありコース

高位に組入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。なお、当ファンドは為替ヘッジを行っているため為替変動による影響は限定的でしたが、ヘッジコストが基準価格上昇の抑制要因となりました。

日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

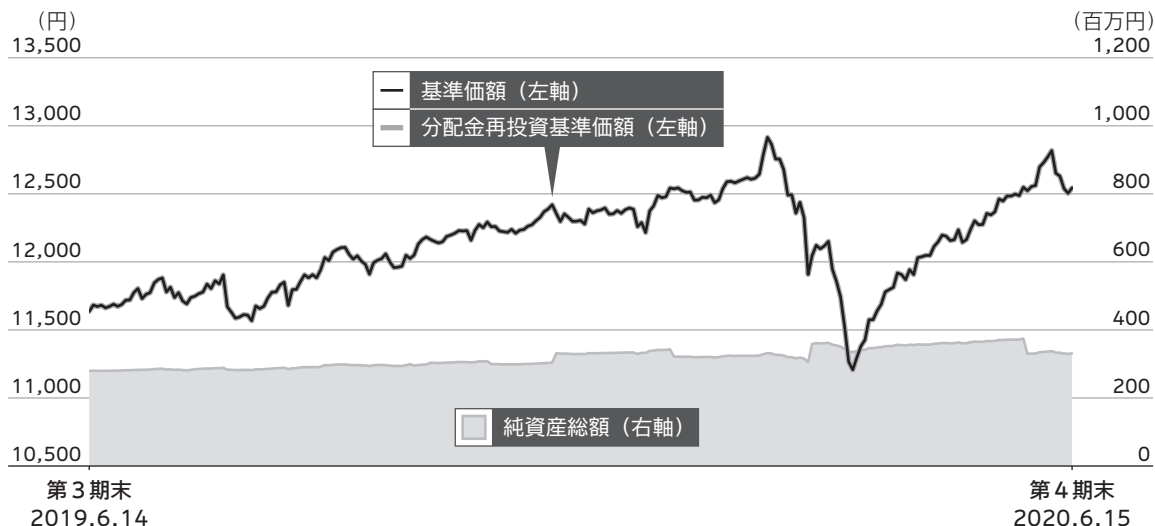
期中の騰落率は+8.9%となりました。保有する日本金融ハイブリッド証券について、対国債スプレッドは拡大しましたが、基準となる米国債券利回りが大きく低下し、インカム収益と合わせて、所有期間利回りは大きくプラスとなりました。なお、為替は円高に推移したことから、基準価額上昇の抑制要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

円ヘッジなしコース



第4期首
基準価額
11,636円

騰落率
7.8%
(分配金再投資)
(基準価額ベース)

第4期末
基準価額
12,544円
(期中分配金)
(合計0円)

- 分配金再投資基準価額の推移は、2019年6月14日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 基準価額の主な変動要因

円ヘッジなしコース

高位に組入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。

日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

期中の騰落率は+8.9%となりました。保有する日本金融ハイブリッド証券について、対国債スプレッドは拡大しましたが、基準となる米国債券利回りが大きく低下し、インカム収益と合わせて、所有期間利回りは大きくプラスとなりました。なお、為替は円高に推移したことから、基準価額上昇の抑制要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 投資環境

○米国債券市場

米国債券利回りは低下（価格は上昇）しました。

利回りは景気減速による利下げ観測や米中通商摩擦の激化を受けて2019年8月下旬頃まで低下した後、米国経済指標の改善や同通商協議の進展期待等を背景に2019年末まで上昇傾向で推移しました。2020年に入ると、イラクを巡る地政学リスクの高まりと中国における新型コロナウイルス感染拡大を背景に利回りは低下しました。同ウイルス感染が世界各国に拡大すると市場のリスク回避姿勢はさらに強まり、FRB（米連邦準備理事会）の緊急利下げ等も背景に、利回りは低下幅を拡大しました。3月中旬には、資金繰り懸念からドルキャッシュ需要が急速に高まり、安全資産とされる米国債も売られ利回りが急上昇する局面がありましたが、その後3月末にかけて再び低下しました。4月以降は大型経済対策等を受けて市場は落ち着きを取り戻し、利回りはほぼ横ばいで推移しました。

○欧州債券市場

ドイツ債券利回りは低下（価格は上昇）しました。

利回りは期初から、欧州経済減速やECB（欧州中央銀行）の追加金融緩和策を受けて低下傾向で推移しました。秋以降は、米国債券利回りが上昇するなか、欧州景気の底打ち感等も背景に上昇しましたが、年明け以降は新型コロナウイルス感染拡大を背景に利回りは低下しました。

○英国債券市場

英国債券利回りは低下（価格は上昇）しました。

EU（欧州連合）離脱による不透明感や新型コロナウイルス感染拡大等を背景に利回りは低下しました。

○日本金融ハイブリッド証券市場

日本金融ハイブリッド証券市場の対国債スプレッドは拡大しました。

同スプレッドは縮小傾向で推移していましたが、2020年2月以降、新型コロナウイルス感染拡大を背景としたリスク回避姿勢の高まりから急拡大しました。4月以降、市場が落ち着きを取り戻すと同スプレッドは縮小しましたが、先行き不透明感が強い環境下、戻りきらず、拡大前より高い水準で

○為替市場

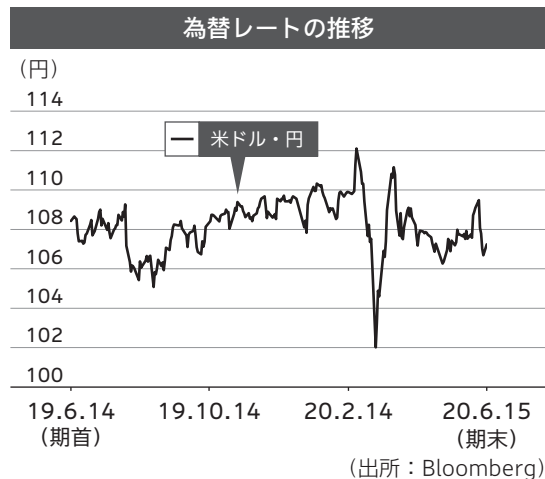
ドル円はドル安円高となりました。

景気減速による米国の利下げ観測から米国債券利回りは低下傾向となり、2019年8月まではドル安円高基調で推移しました。その後景況感の持ち直しによる米国債券利回りの底打ちからドルは上昇に転じ、2020年2月まではドル高基調で推移しました。2月末以降、新型コロナウイルス感染が世界的に拡大し、米国が大幅利下げを行うと、ドルは下落に転じました。3月下旬にかけてドルキャッシュ需要の高まりから一時的にドルが大きく買い戻される局面もありましたが、基調としてはドル安円高となりました。

● 当該投資信託のポートフォリオ

☎ 円ヘッジありコース／円ヘッジなしコース

両コースとも、期を通して日本金融ハイブリッド証券マザーファンドの組入比率を高位に維持しました。円ヘッジありコースでは、為替変動リスクを回避する目的から、為替のフルヘッジを行っています。

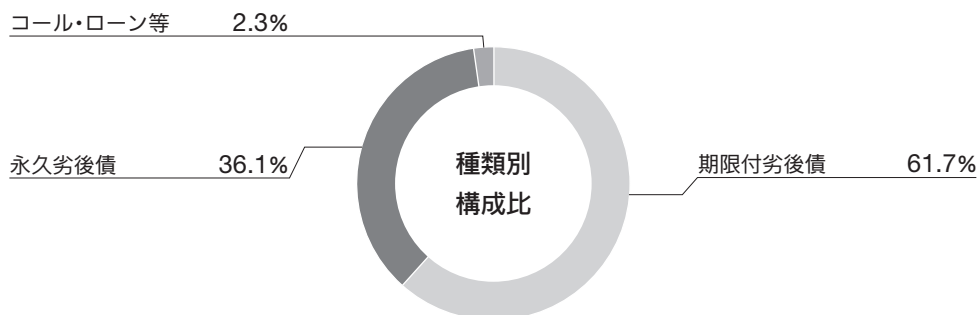


注. 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

決算日時点のポートフォリオは7銘柄で構成されています。投資している証券はすべて外貨建てとなっています。

第4期末時点のポートフォリオ構成は円グラフの通りです。



注1. 比率は、第4期末における純資産に対する割合。

注2. 端数処理の関係上、構成比合計が100%とならない場合があります。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

円ヘッジありコース／円ヘッジなしコース

各ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 分配金

中長期的な観点から、複利効果による資産の成長を目指すために分配を抑えるファンドです。

円ヘッジありコース

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、分配を行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳 (単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第4期 2019.6.15~2020.6.15
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,439

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

円ヘッジなしコース

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、分配を行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳 (単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第4期 2019.6.15~2020.6.15
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,543

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

● 今後の運用方針

円ヘッジありコース

今後も、日本金融ハイブリッド証券マザーファンドの組入水準を高位に維持することで、中長期的なトータルリターンの上を目指します。また、為替変動リスクを回避する目的から為替のフルヘッジについても継続します。

円ヘッジなしコース

今後も、日本金融ハイブリッド証券マザーファンドの組入水準を高位に維持することで、中長期的なトータルリターンの上を目指します。

日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

投資環境の変化を引き続き注視しながら、現在のポートフォリオ特性を今後も原則維持する方針です。また適宜利回りの高い債券への入替えを行い、トータルリターンの上を図ります。

● 1万口当たりの費用明細

 円ヘッジありコース

項目	第4期 2019.6.15～2020.6.15		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	99円	0.927%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率（年率） × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">期中の平均基準価額は10,657円です。</div>
（投信会社）	（ 47）	（0.441）	ファンドの運用の対価
（販売会社）	（ 47）	（0.441）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	（ 5）	（0.044）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	2	0.019	(b) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
（保管費用）	（ 1）	（0.010）	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
（監査費用）	（ 1）	（0.009）	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
（その他）	（ 0）	（0.001）	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	101	0.946	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

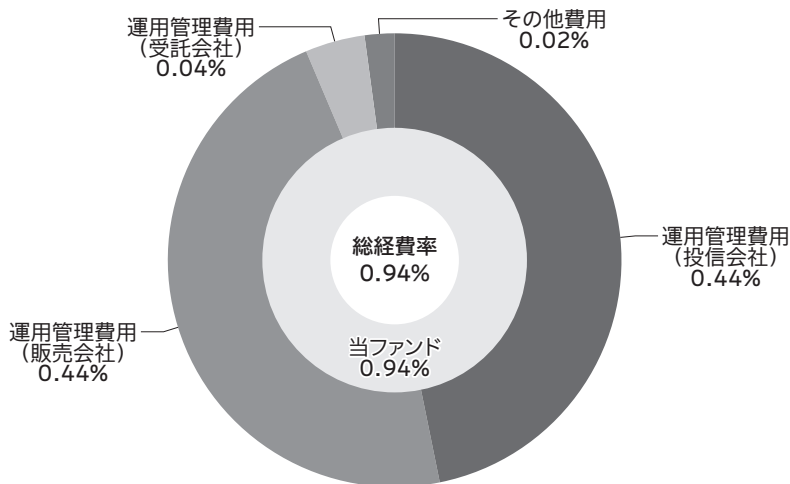
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.94%**です。



注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

 円ヘッジなしコース

項目	第4期 2019.6.15～2020.6.15		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	113円	0.927%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率（年率） × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">期中の平均基準価額は12,160円です。</div>
（投信会社）	（ 54）	（0.441）	ファンドの運用の対価
（販売会社）	（ 54）	（0.441）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	（ 5）	（0.044）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	2	0.020	(b) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
（保管費用）	（ 1）	（0.010）	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
（監査費用）	（ 1）	（0.009）	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
（その他）	（ 0）	（0.001）	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	115	0.947	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

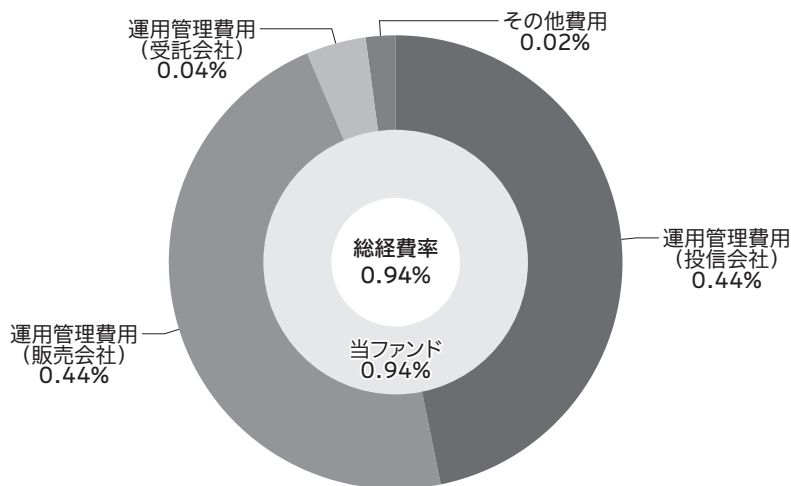
注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.94%**です。



注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

注5. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

円ヘッジありコース

○売買及び取引の状況

(2019年6月15日～2020年6月15日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド		74,056	114,810	257,796	395,000

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 金額は受渡代金。

○利害関係人との取引状況等

(2019年6月15日～2020年6月15日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2020年6月15日現在)

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド		694,320	510,579	819,071

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 当ファンドは、当期末において、直接投資をする株式及び新株予約権証券の組入れはありません。

○投資信託財産の構成

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末	比 率
	評 価 額	
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	千円 819,071	% 96.8
コール・ローン等、その他	27,203	3.2
投資信託財産総額	846,274	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 日本金融ハイブリッド証券マザーファンドにおいて、当期末における外貨建資産(7,796,836千円)の投資信託財産総額(7,871,004千円)に対する比率は、99.1%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。
なお、当期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=107.24円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2020年6月15日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,647,545,097
コール・ローン等	27,202,425
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド(評価額)	819,071,925
未収入金	801,270,747
(B) 負債	806,015,935
未払金	801,793,200
未払解約金	115,731
未払信託報酬	4,047,869
未払利息	44
その他未払費用	59,091
(C) 純資産総額(A-B)	841,529,162
元本	766,548,953
次期繰越損益金	74,980,209
(D) 受益権総口数	766,548,953口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,978円

(注1) 信託財産に係る期首元本額994,511,377円、期中追加設定元本額170,462,275円、期中一部解約元本額398,424,699円

(注2) 期末における1口当たりの純資産総額1.0978円

○損益の状況（2019年6月15日～2020年6月15日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 16,476
支払利息	△ 16,476
(B) 有価証券売買損益	51,783,628
売買益	121,940,117
売買損	△ 70,156,489
(C) 信託報酬等	△ 8,376,056
(D) 当期繰越損益金(A+B+C)	43,391,096
(E) 前期繰越損益金	21,069,433
(F) 追加信託差損益金	10,519,680
(配当等相当額)	(20,049,084)
(売買損益相当額)	(△ 9,529,404)
(G) 計(D+E+F)	74,980,209
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	74,980,209
追加信託差損益金	10,519,680
(配当等相当額)	(20,359,882)
(売買損益相当額)	(△ 9,840,202)
分配準備積立金	89,994,310
繰越損益金	△ 25,533,781

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程（2019年6月15日～2020年6月15日）は以下の通りです。

項 目	2019年6月15日～ 2020年6月15日
a. 配当等収益(費用控除後)	28,624,830円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	0円
c. 信託約款に規定する収益調整金	20,359,882円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	61,369,480円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	110,354,192円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	1,439円
g. 分配金	0円

円ヘッジなしコース

○売買及び取引の状況

(2019年6月15日～2020年6月15日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド		65,858	101,860	49,375	78,650

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 金額は受渡代金。

○利害関係人との取引状況等

(2019年6月15日～2020年6月15日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2020年6月15日現在)

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド		187,471	203,954	327,183

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 当ファンドは、当期末において、直接投資をする株式及び新株予約権証券の組入れはありません。

○投資信託財産の構成

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	千円 327,183	% 98.4
コール・ローン等、その他	5,264	1.6
投資信託財産総額	332,447	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 日本金融ハイブリッド証券マザーファンドにおいて、当期末における外貨建資産(7,796,836千円)の投資信託財産総額(7,871,004千円)に対する比率は、99.1%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。
なお、当期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=107.24円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2020年6月15日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	332,447,281
コール・ローン等	5,264,188
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド(評価額)	327,183,093
(B) 負債	1,660,781
未払解約金	68,532
未払信託報酬	1,569,342
未払利息	8
その他未払費用	22,899
(C) 純資産総額(A-B)	330,786,500
元本	263,706,719
次期繰越損益金	67,079,781
(D) 受益権総口数	263,706,719口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,544円

(注1) 信託財産に係る期首元本額239,792,940円、期中追加設定元本額98,161,176円、期中一部解約元本額74,247,397円

(注2) 期末における1口当たりの純資産総額1,2544円

○損益の状況（2019年6月15日～2020年6月15日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 2,645
支払利息	△ 2,645
(B) 有価証券売買損益	23,004,516
売買益	27,798,685
売買損	△ 4,794,169
(C) 信託報酬等	△ 2,962,724
(D) 当期損益金(A+B+C)	20,039,147
(E) 前期繰越損益金	7,244,425
(F) 追加信託差損益金	39,796,209
(配当等相当額)	(21,034,026)
(売買損益相当額)	(18,762,183)
(G) 計(D+E+F)	67,079,781
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	67,079,781
追加信託差損益金	39,796,209
(配当等相当額)	(21,256,832)
(売買損益相当額)	(18,539,377)
分配準備積立金	27,283,572

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程（2019年6月15日～2020年6月15日）は以下の通りです。

項 目	2019年6月15日～ 2020年6月15日
a. 配当等収益(費用控除後)	11,656,901円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	7,029,629円
c. 信託約款に規定する収益調整金	39,796,209円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	8,597,042円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	67,079,781円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	2,543円
g. 分配金	0円

○お知らせ

日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジありコース
日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジなしコース

- ・投資信託の監査にかかる費用を適切に反映させるため、2020年1月から、監査費用の徴収方法を変更することと致しました。
- ・2020年4月1日の委託者の名称等変更に伴い、委託者名および電子公告の掲載アドレスが変更となるため、信託約款に所要の変更を行いました（2020年4月1日）。

日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

運用報告書

第7期（決算日 2019年12月16日）

<計算期間 2018年12月15日～2019年12月16日>

日本金融ハイブリッド証券マザーファンドの第7期の運用状況をご報告申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	無期限
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的とします。
主要投資対象	日本の金融機関グループ（銀行本体、保険会社およびそれぞれの子会社、関連会社等を含みます。）が発行した外貨建てのハイブリッド証券（期限付劣後債、永久劣後債、優先出資証券等）
主な組入制限	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 騰 落 中 率		債 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率		
3期(2015年12月14日)	円		%	%	百万円
4期(2016年12月14日)	13,773		6.2	94.9	4,624
5期(2017年12月14日)	13,428	△	2.5	97.7	12,039
6期(2018年12月14日)	14,139		5.3	98.2	13,559
7期(2019年12月16日)	14,032	△	0.8	97.7	9,220
	15,720		12.0	98.1	8,216

(注1) 基準価額は1万口当たり（以下同じ）。

(注2) 当ファンドは、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年	月	日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率
				騰 落	率		
	(期 首)		円		%		%
	2018年12月14日		14,032		—		97.7
	12月末		13,753		△ 2.0		96.9
	2019年1月末		13,908		△ 0.9		97.9
	2月末		14,249		1.5		98.1
	3月末		14,557		3.7		98.4
	4月末		14,745		5.1		98.3
	5月末		14,679		4.6		98.1
	6月末		14,844		5.8		97.8
	7月末		15,007		6.9		98.7
	8月末		15,105		7.6		97.4
	9月末		15,270		8.8		98.4
	10月末		15,543		10.8		99.2
	11月末		15,757		12.3		98.5
	(期 末)						
	2019年12月16日		15,720		12.0		98.1

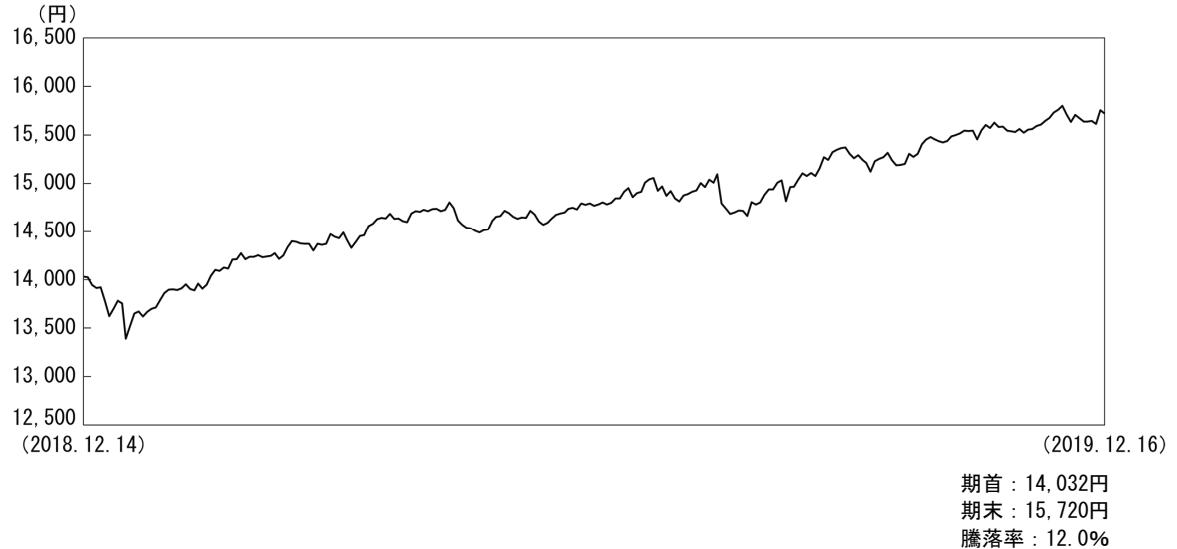
(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 当ファンドは、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

○運用経過

(2018年12月15日～2019年12月16日)

■基準価額の推移



■基準価額の主な変動要因

保有する日本金融ハイブリッド証券は、基準となる米国債券利回りが大きく低下（価格は上昇）し、また対国債スプレッドも縮小したことから利回りは低下しました。同証券の高いクーポン収入も寄与し、基準価額は大きく上昇しました。為替は円高方向に推移したことから、基準価額上昇の抑制要因となりました。

■投資環境

○米国債券市場

米国債券利回りは低下しました。

2018年12月から2019年初にかけての株価急落、その後の米中通商問題激化等を受けた市場のリスク回避姿勢の高まりや利下げ観測を背景に、9月上旬まで利回りは大幅に低下しました。その後は、7月以降3回の利下げを実施したF R B（米連邦準備理事会）が、今後の政策金利について当面据え置きの姿勢を示したことや、米中通商交渉の進展への期待等を背景に、利回りは上昇（価格は下落）傾向で推移しましたが、期末の利回りは期初を下回る水準となりました。

○欧州債券市場

ドイツ債券利回りは低下しました。

米中通商問題等を背景とした市場のリスク回避姿勢の高まりや、E C B（欧州中央銀行）の利下げ観測等から、期初から2019年9月上旬にかけて利回りは大きく低下しました。9月にE C Bが利下げを含む追加緩和策を発表した後は追加の利下げ観測は一服し、米中通商交渉の進展期待等を背景に、利回りは上昇傾向で推移しましたが、期末の利回りは期初を大きく下回る水準となりました。

○英国債券市場

英国債券利回りは低下しました。

欧米債券利回り低下の動きに加え、ブレグジット（英国のE U離脱）の先行き不透明感への警戒感から、英国債券利回りは夏ごろまで低下し、欧米債券利回りが2019年9月ごろ反転し上昇すると、英国債券利回りも上昇しましたが、期末の利回りは期初を大きく下回る水準となりました。

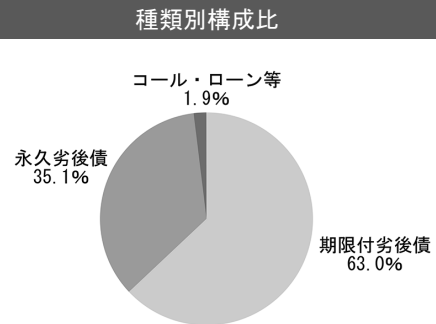
○日本金融ハイブリッド証券市場

日本金融ハイブリッド証券は、基準となる米国債券利回りが低下し、投資家の根強い需要を反映して対国債スプレッドも縮小したことから、利回りは大きく低下しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

決算日時点のポートフォリオは7銘柄で構成されています。投資している証券はすべて外貨建てとなっています。

期末時点のポートフォリオ構成は円グラフの通りです



(注1) 比率は、第7期末における純資産に対する割合。

(注2) 端数処理の関係上、構成比合計が100%と異なる場合があります。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

■今後の運用方針

投資環境の変化を引き続き注視しながら、現在のポートフォリオ特性を今後も原則維持する方針です。また適宜利回りの高い債券への入替えを行い、トータルリターンの向上を図る方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2018年12月15日～2019年12月16日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 2	% 0.010	(a) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保 管 費 用)	(2)	(0.010)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	2	0.010	
期中の平均基準価額は14,784円です。			

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2018年12月15日～2019年12月16日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	社債券 (投資法人債券を含む)	千アメリカ・ドル 8,578	千アメリカ・ドル 22,921

(注1) 金額は受渡代金 (経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 社債券 (投資法人債券を含む) には新株予約権付社債 (転換社債) は含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2018年12月15日～2019年12月16日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2019年12月16日現在)

外国公社債

(A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	68,400	73,621	8,056,380	98.1	—	95.8	2.3	—
合 計	68,400	73,621	8,056,380	98.1	—	95.8	2.3	—

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期 末						償還年月日
	利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日		
			外貨建金額	邦貨換算金額			
アメリカ	%	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円			
普通社債券 (含む投資法人債券)	DAI-ICHI 4.0 260724	4.0	19,500	20,242	2,215,100	2026/7/24	
	MEIJIYASUDA 5.2 251020	5.2	19,200	21,308	2,331,814	2025/10/20	
	MIZUHO FG 4.6 240327	4.6	1,600	1,704	186,515	2024/3/27	
	MSINS 4.95 290306	4.95	5,500	6,092	666,673	2029/3/6	
	NIPPON LIFE 4.7 260120	4.7	19,600	21,204	2,320,382	2026/1/20	
	SUMITOMO LIFE 4.0 270914	4.0	1,000	1,056	115,562	2027/9/14	
	SUMITOMO MI 3.202 290917	3.202	2,000	2,013	220,330	2029/9/17	
合 計					8,056,380		

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注3) 繰上償還条項が付与されている銘柄については、繰上償還予定日を償還日に記載しています。

*当ファンドは、当期末において、株式及び新株予約権証券の組入れはありません。

○投資信託財産の構成

(2019年12月16日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 8,056,380	% 98.1
コール・ローン等、その他	159,737	1.9
投資信託財産総額	8,216,117	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 当期末における外貨建資産(8,171,003千円)の投資信託財産総額(8,216,117千円)に対する比率は、99.5%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

なお、当期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=109.43円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年12月16日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	8,216,117,095
コール・ローン等	54,765,583
公社債(評価額)	8,056,380,828
未収利息	104,299,489
前払費用	671,195
(B) 負債	117
未払利息	117
(C) 純資産総額(A-B)	8,216,116,978
元本	5,226,590,367
次期繰越損益金	2,989,526,611
(D) 受益権総口数	5,226,590,367口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,720円

(注1) 信託財産に係る期首元本額6,571,157,829円、期中追加設定元本額265,988,707円、期中一部解約元本額1,610,556,169円

(注2) 期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託ごとの元本の内訳

日本金融機関ハイブリッド証券ファンド	円ヘッジあり	1,344,165,540円
日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)	円ヘッジありコース	2,768,587,959円
日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)	円ヘッジなしコース	358,588,612円
日本金融ハイブリッド証券オープン(年1回決算型)	円ヘッジありコース	546,857,037円
日本金融ハイブリッド証券オープン(年1回決算型)	円ヘッジなしコース	208,391,219円

(注3) 期末における1口当たりの純資産総額 1.5720円

○損益の状況 (2018年12月15日～2019年12月16日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	398,653,860
受取利息	398,699,710
支払利息	△ 45,850
(B) 有価証券売買損益	612,645,247
売買益	952,324,095
売買損	△ 339,678,848
(C) 保管費用等	△ 927,156
(D) 当期損益金(A+B+C)	1,010,371,951
(E) 前期繰越損益金	2,649,677,198
(F) 追加信託差損益金	125,051,293
(G) 解約差損益金	△ 795,573,831
(H) 計(D+E+F+G)	2,989,526,611
次期繰越損益金(H)	2,989,526,611

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 解約差損益金とは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。